

結婚式の仲人を頼まれたときのことです。新郎新婦を紹介する段になりました。

「①」には「○△君は中高生時代から非常に優秀で、○□大学に合格。現在も社内の成績が抜群で、社内の人望は厚く…」などと言って、褒めちぎるものです。

(池上彰『「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を変える！伝える力』  
〈PHP ビジネス新書〉より、一部引用)

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一般的                      イ 例外的                      ウ 個人的                      エ 全体的

「人と違<sup>ちが</sup>っているのは劣<sup>おと</sup>っているってことじゃないんだ。それぞれがそれぞれでいいって  
もつと」①「」が認められる社会にしていかなきゃいけないって思うし、時間をかけて  
少しずつそういう時代になるって僕は信<sup>ぼく</sup>じてるよ」

(青山美智子『鎌倉つずまき案内所』〈宝島社〉)より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 同一性      イ 創造性      ウ 多様性      エ 多面性

ブータンに行ったとき、「先進国は失敗しているから、私たちは二の舞<sup>まい</sup>を踏<sup>ふ</sup>まないようにしている」という話を聞きました。アジアの最貧国のひとつとされている国ですが、

「①」な豊かさより「②」な豊かさを大事にしようと、「国民総幸福量（GNH）」を国の繁栄<sup>はん</sup>の物差しにすえたのです。

（汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』  
〈ちくまプリマー新書〉より、一部引用）

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| ア | ①…主観的 | ②…客観的 |
| イ | ①…近代的 | ②…古典的 |
| ウ | ①…理性的 | ②…感情的 |
| エ | ①…物質的 | ②…精神的 |

キリスト教世界では、「神」がきわめて大きな存在であり、人間の行動を見守り、それを厳しく律している。神への背信行為は「罪」となり、人間は相応の「罰」を受けることになる。「①」に日本人の多くは無宗教であり、正月には神社に初詣に出かけ、結婚式は教会で挙げ、死んだら寺にあるお墓に入ることについて、あまり疑問に感じることはない。

（中西雅之『なぜあの人とは話が通じないのか？』  
〈光文社新書〉より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 系統的      イ 全体的      ウ 常識的      エ 対照的

こうした生物的時間は、個人的なしきりとは異なっている。生物的時間はある程度規則的であるが、個人的な時間は、「①」であることが特徴的である。退屈たいくつに感じる時間、あつという間に過ぎる時間、止まったように感ずる時間、そして、仕事や学習などの時間のリズムは、まさに個人的であり、それぞれが時間のしきりを持っている。

（柏木博『「しきり」の文化論』〈講談社現代新書〉より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 抽象的ちゆうしやうてき

イ 具体的くわてきてき

ウ 主観的

エ 客観的

インターネット上には多くのニュースがあふれていますよね。でも、ヘッドライン※

ニュースを見るだけでは優先順位は分からないでしょう? 「人によって大事なニュースは違うのだから、優先順位なんかなくてもいいんじゃないか」という意見もあるかもしれない。これだけ価値が「①」「②」した時代なので、ある人にとっては重要なニュースも、ある人にはまったく関心のないものになってしまうのも分かります。

※ヘッドライン：見出し

(名古屋隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』〈岩波ジュニア新書〉)より、一部引用

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 専門化      イ 一般化      ウ 多様化      エ 具体化      オ 表面化

他方、仕事に不満でも、消費を通じて自分のアイデンティティを確認する方法もある。自分とはどんな車に乗っていて、どこのブランドの服を着ていて、拘り抜いたこんな家に住んでいる。これが、自分という人間だ、と。

しかし、経済状態の悪化は、その両方の可能性を<sup>あつぱく</sup>圧迫する。アイデンティティ・クライシス自体は、近代以降の「①」な現象だが、それが過剰に<sup>あお</sup>煽られる時代もある。

※アイデンティティ…自己同一性。自分が自分であるということ。

（平野啓一郎『私とは何か「個人」から「分人」へ』  
〈講談社現代新書〉）より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 普遍的      イ 典型的      ウ 反動的      エ 適合的

学校の勉強は、実生活で役に立つか、それとも立たないか、そう問われると、私たちは思わず、どちらかが正しいんじゃないかと思ってしまいはないでしょうか？

でも、この問いはどちらかが絶対に正しくて、どちらかが絶対に間違<sup>まちが</sup>っているというような問いではありません。実生活で、役に立つものもあれば、あんまり立たないものもある。というより、それは人によって違うから、まさに「①」できない問題なのです。いわれてみれば(いわれなくても)あたりまえのことなのです。

(苦野一徳『勉強するのは何のため？』  
〈日本評論社〉) より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一般化

イ 個別化

ウ 抽象化<sup>ちゆうしやう</sup>

エ 特殊化



ロボットはテーブルの下や椅子のあいだをくぐり抜けながら、床の塵やホコリをかき集め、それを吸い込んでいく。ゴツンゴツンと部屋の壁や椅子などにぶつかるたびに、その進路方向を小刻みに変える。

ゴツンと当たりながら、その隅にあるホコリを丁寧に掻き集めていく。

この気ままなお掃除ぶりは、はたして「①」なものなのか？同じところを入ったり来たりと重複も多そうだ。

（岡田美智男『弱いロボットの思考』  
〈講談社現代新書〉）より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一般的      イ 科学的      ウ 効率的      エ 計画的

そもそも、恥はじをかいで覚えたことは絶対忘れないものだ。みんなの前で間違まちがえたとか、ずっと間違ったまま使ってたとか、恥とは、体に空いた穴のようなもので、そこを埋めても形が残るのだ。だから忘れない。古傷と共に、そのときのことを覚えていいるのと同じなのだ。そのことを「①」に知っているの、僕は「②」に恥をかくことにしている。

（小川仁志『小川仁志の哲学思考実験室』  
〈教育評論社〉より、一部引用）

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |       |       |   |       |       |
|---|-------|-------|---|-------|-------|
| ア | ① 感情的 | ② 習慣的 | イ | ① 感情的 | ② 積極的 |
| ウ | ① 感情的 | ② 功利的 | エ | ① 体験的 | ② 習慣的 |
| オ | ① 体験的 | ② 積極的 | カ | ① 体験的 | ② 功利的 |

聴導犬ちやうどうけんがすごいと思うのは、人から指示されなくても、自ら考えて、「①」に動くという点です。介助犬かいじょけんも盲導犬もうどうけんも、犬は人の指示に従って動くように訓練されていますが、聴覚に障害のある人が「いま音が鳴っているから教えて」と犬に指示することはできません。

（森達也『集団に流されず個人として生きるには』  
〈ちくまプリマー新書〉より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自律的      イ 自発的      ウ 自動的      エ 自制的

ヨーロッパでも似たようなことがあり、かつてヨーロッパ人は文章を書こうとすればほとんどラテン語によったはずで、英語、ドイツ語等々で文章を書くようになるのはそんなに古い話ではない。そして、英語、ドイツ語等々の文体が確立されると、現在では知識人でもラテン語ですらすらと文章が書ける人はそう多くないのではあるまいか。このように考えれば、漢詩や漢文を書く人が少なくなっているのは別に異とするには足りず、「①」、<sup>※1</sup>普遍的な現象の一端にすぎないのである。<sup>※2</sup>普遍的な現象の一端にすぎないのである。

近年これも「①」な現象として、漢字文化の見なおしというようなことがしきりにいわれるようであるが、そうしたことは関係なく、私たちはみずからの言語生活、<sup>すなわち</sup>更には精神構造のルーツとして、漢字文化との永く深いかわりの歴史を時折りふり返ってみる必要があると思う。

※1 異とするには足りず…よくあることで

※2 普遍的…すべてのものにあてはまるさま

(村上哲見『漢詩と日本人』〈講談社選書メチエ〉より、一部引用)

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 具体的      イ 局地的      ウ 模範的      エ 世界的

祖母は自分に死期が近いことを知っていたのか。それこそ年を取ると「①」に死が近くなってくるので、ふだんからそのことばかり考えていたのか。

（中島京子『樽とタタン』〈新潮社〉）より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 直感的

イ 具体的

ウ 必然的

エ 対照的

言葉遣い<sup>づ</sup>が丁寧になればなるほど、心から感謝しているという思いが伝わるはずだ。

ただ口先で「①」に感謝の言葉をいっただけでは、儀礼<sup>ぎれい</sup>的な意味しか伝わらない。

(山崎武也『気づけがうまい人のもの言い方だから、心に残る。また会いたくなる。』〈三笠書房〉)より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自動的      イ 本質的      ウ 対比的      エ 主体的

時間をかけてご飯を炊く手間をかけるよりも、より便利な外食を利用したり、お惣菜を買ってきたりすることが増えています。

こうした変化により、僕たちはいま「昔よりも」「①」に食の選択肢が広がった」  
世界で食生活を営んでいます。しかし、この豊かな食生活は国内で作られた食料だけでなく、輸入された食料や飼料しりょうによって支えられている部分がかなり大きいのです。

（白石優生『タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます』へ〈河出書房新社〉）より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 画期的
- イ 圧倒的
- ウ 実質的
- エ 計画的

やはり人類は昔から、こういう問題に直面してきたのです。快樂はあるけれどもよろこびがない、物はあるけれども充足じゆうじゆしないという問題に。

ところが、昔の社会では、こういう状況じやうきやうに陥おちいる人は少数でした。たとえば、権力の頂点に立つて人々から搾取さくしゆしている貴族や王族などの、ひとにぎりの人々だけだったでしょう。

すなわち、文明が進歩した結果、昔はひとにぎりの貴族とか王様だけが陥おちいっていた状況が、

「①」したと考えられるのです。

（森岡正博『生命学をひらく自分と向きあふ「いのち」の思想』  
ヘトランスビュー）より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大衆化      イ 絶対化      ウ 孤立化      エ 具体化      オ 縮小化



贅<sup>ぜい</sup>を要求するのは、自分の体に備わった「①」な欲望ではありません。

むしろ、我々が欲望だと思っているもののほとんどは、他者との関係に根ざしているのです。どんな美味<sup>びみ</sup>な料理でも、無人島で一人食べるなら味気ないものになるでしょう。贅沢を求める我々の欲望自体が、本来「②」なものなのです。

(菅野覚明『日本の元徳』ヘースボール・マガジン社)  
より、一部引用

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |      |      |   |      |      |
|---|------|------|---|------|------|
| ア | ①肉体的 | ②全体的 | イ | ①個人的 | ②本質的 |
| ウ | ①人工的 | ②文明的 | エ | ①個性的 | ②共同的 |
| オ | ①本能的 | ②社会的 |   |      |      |

ある事実があったとする。その事実が知識のままでは伝わらず、長いあいだ、人々のあいだを、形を変えながらさまよっているうちに、ある時期にいたって、たとえば「犬も歩けば棒に当たる」というようなひとつの表現になってあらわれてくる。

このときには、知識ではなくなっているから、もはや流れない。十年たっても、二十年たっても、ある程度の意味をもって定着する。

それに対し、「犬が棒で打たれてケガをした」という事実があって、それを新聞が記事に書いたとしても、三日もたてば忘れられてしまうだろう。「犬も歩けば棒に当たる」ということわざの形になったときに、はじめて「①」をもってくるのである。

（外山滋比古『「考える頭」のつくり方』（PHP文庫）  
より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 具体性      イ 一貫性      ウ 普遍性      エ 客観性

観光化の進む時代にあつては、地域の人びとだけでなく、地域を商品化しようとする旅行会社や地域外のメディアなども、地域に「意味」を与えようとします。場合によっては、それが地域の人びとが求める暮らしとは違<sup>ちが</sup>うものになっていく可能性もあるので、注意が必要です。

「①」な話があります。海外の事例ですが、ネパール南部のインド国境近くに、ブッダの生誕地とされるルンビニという地域があります。現在では、仏教の四大聖地の一つとして観光開発されました。開発計画をつくったのは、日本人建築家・丹下健三<sup>たんげけんぞう</sup>です。寺院区域には世界中の仏教寺院が建立<sup>こんりゅう</sup>され、あたかも仏教テーマパークの様相<sup>ようさう</sup>を呈<sup>てい</sup>して、スリランカやタイなどから多数の観光客が訪<sup>ま</sup>れてい<sup>ま</sup>るそうです。

（除本理史・佐無田光『きみのまちに未来はあるか？「根っこ」から地域をつくる』〈岩波ジュニア新書〉より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 経済的                      イ 宗教的                      ウ 象徴的                      エ 抽象的

こうした海流分布による移動は、当然ながら流される海流の方向に左右される。その種の生息地を通過する海流によって、分散の方向性が決定されるのだ。ゾウガメなど、ガラパゴス諸島の有名な生物たちも、フンボルト海流に乗って南米大陸から流されてきた種の子孫たちだ。日本でも、南方から黒潮に乗ってやってきた昆虫種がいくつも知られている。

二つ目は空を飛んでいく方法だ。この場合も、自力だけで海の上を飛び、ちようきより長距離移動をする種は少ない。鳥や昆虫の羽は、はばたく「①」な道具であるだけでなく、気流に乗って「②」に移動する際の助けとなることも多い。

（高橋敬一『昆虫にとってコンベエとは何か？』  
〈朝日選書〉より、一部引用）

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア	協調的	イ	受動的	ウ	総合的	エ	個性的	オ	能動的
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

先にも説明しましたが、植物が成長するためには、光を浴びて光合成をしなければなりません。光を浴びるためには、他の植物よりも高い位置に葉をつけなければなりません。もし、他の植物よりも低ければ、他の植物の陰で光合成をしなければなりません。有利に光合成をするためには、他の植物よりも少しでも高く伸びなければなりません。光を求める植物たちにとって、自分がどれだけ伸びたのかという「①」な高さは、じつは重要ではありません。光を浴びるために大切なのは、他の植物よりも、少しでも高く伸びるという「②」な高さです。そして、他の植物よりも少しでも上に葉を広げようと上へ上へと伸びるのです。植物たちはこうして激しい競争を繰り広げています。

（稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる生き物をめぐる個性の秘密』  
〈ちくまプリマー新書〉より、一部引用）

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |   |     |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 無機的 | イ | 利他的 | ウ | 相対的 | エ | 客観的 | オ | 利己的 |
| カ | 空想的 | キ | 絶対的 |   |     |   |     |   |     |

生徒たちがともに学んで、理解していく。よく理解できていない子には誰かが教えてあげて、学びを「①」していく。仲間に教えることで、その人自身の知識も整理されて、理解が深まります。それが本来の学びのあり方でしょう。

（汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』へちまプリマー新書）  
より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 共同化      イ 一般化      ウ 具体化      エ 同一化      オ 顕在化

探求が間違<sup>ちが</sup>いなく人生を豊かにしてくれるものであるとして、次に考えなくてはいい  
ないのはその「①」な方法です。人が何かを探求しようとするにあたって、通常  
多くの人がイメージするのは、「たくさんの文献、オンライン情報を含めたテキストを  
読む」ということでしょう。

（齊藤孝『知性の磨き方』（S B 新書）より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものの中から選び、記号で答えなさい。

ア 客観的      イ 個性的      ウ 本格的      エ 形式的      オ 具体的

※1

王子製紙おうじせいしは明治時代からつづく製紙会社の老舗らうほ。当時の製紙工場から排出はいしゅつされていた煙けむりには

※2

独特どとくのにおいがあり、さほど刺激しげき的ではないのだが、鼻おくの奥まで届き、「①」ダメージよりも「②」ダメージの方が大きく、はっきり言えばおならにそっくりなおいだった。

※1 王子製紙……製紙会社の名前

※2 老舗……昔から続いている店舗や会社

(道尾秀介「煙の謎」)より、一部引用

「①」「②」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- |      |      |                             |                          |
|------|------|-----------------------------|--------------------------|
| エ    | ウ    | イ                           | ア                        |
| ①精神的 | ①形式的 | ①具体的                        | ①物理的                     |
| ②身体的 | ②実体的 | ②抽象 <small>ちゅうしょう</small> 的 | ②心理 <small>ちんり</small> 的 |



さきほど説明したように、状況や相手との関係性に応じて「わたし」が変化するという見方も、まさに「分人<sup>ぶんじん</sup>」的な人間のとらえ方です。「①」には、「わたし」のなかに複数の人間関係にねざした「わたし」がいる。だれと出会うか、どんな場所に身をおくかによって、別の「わたし」が引き出される。

ここで重要なのは、他者によって引き出されるとい点です。それは「わたし」が「②」に異なる役を演じ分けているのとは違<sup>ちが</sup>います。他者との「つながり」を原点にして「わたし」をとらえる見方です。

(松村圭一郎『はみだしの人類学 ともに生きる方法』NHK 出版)  
より、一部引用

「①」「②」に入ることばとして、最適なものの中から選び、記号で答えなさい。

- |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 個性的 | イ | 意図的 | ウ | 抽象的 | エ | 肉体的 |
| オ | 普遍的 | カ | 潜在的 |   |     |   |     |

客観という言葉が含む<sup>ふく</sup>厳密<sup>げんみつ</sup>さに人は安心します。　　く中略　　しかし、この心の落ち着<sup>くせもの</sup>きは曲者<sup>くせもの</sup>です。というのは人間は楽なことが好きだからです。いつかの時点から安堵<sup>あんど</sup>が高じて「それに寄りかかりさえすれば大丈夫だ」と思い始め、「厳密な事実」を言い訳に使うようになるからです。物事を検証するのではなく、他者を責めるための取り回しのよい道具として扱<sup>あつか</sup>い始めます。「だから私は正しく、おまえは悪いのだ」と言つために客観性を用いるようになりさえする。

つまり客観的事実から「①」が生じてしまうわけです。事実がどうであるかよりも、自分が「これが現実だ、これが正しい」と思いたがっている事実のほうが大事になってくる。客観性を物事への問いかけではなく、答えにしたとき、自分が騙<sup>だま</sup>されてしまうという事実について見えなくなってしまうのです。

(尹雄大『やわらかな言葉と体のレッスン』〈春秋社〉)より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一般性      イ 厳密性      ウ 消極性      エ 独善性      オ 楽観性

さいわい哲学を勉強している私には、かれが何を言おうとしているのかはわかります。しかし、いま、じっさいに私たちが行っている日々の行動や生活と、どのように結びつくかはつきりと知ることができるほど、じゅうぶんにはわかりません。じつは、この文章そのものが、そのような形で説明されていないのです。「自我」とか「反省」とか、そのほか多くの「①」なことが使われているだけではなく、このようなことばの意味が、この文だけではあいまいだからです。

(沢田允茂『考え方の論理』〈講談社学術文〉より、一部引用)

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 抽象的 ちゆうしやう      イ 意欲的      ウ 気分的      エ 比喩的 ひよ      オ 客観的

人間のコミュニケーションにおいて大事なものは、時を共有して同調することであり、

信頼はそこにしか生まれません。母と子が、何の疑いもなく信頼関係を結べるのは、もと

もと「①」していたからです。胎児<sup>たいてい</sup>のときは、お母さんの動きを直に感じとっています。

（山極寿一『スマホを捨てたい子どもたち野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』〈ポプラ新書〉より、一部引用）

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 均一化      イ 一本化      ウ 一体化      エ 統合化

犬が飼い主の命令に応え、褒めると尻尾を振って喜ぶ様子を見て、彼らに精神作用、すなわち心がないと考えることは難しいです。研究によると、常用馬は、困った状態では、人間に助けを求めるそうです。このように、ヒト以外の動物にも心が備わることを、私たちは「①」に知っています。

(森山徹『モノに心はあるのか』〈新潮選書〉より、一部改・引用)

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 必然的

イ 経験的

ウ 本格的

エ 心理的

もう一つ。じぶんをむきだしにしないという意味では化粧<sup>けしやう</sup>や衣服もマスクと「①」に変わらない。マスクはたしかに、じぶんというものを護<sup>まも</sup>るために、じぶんとは異なる〈他〉との接触<sup>せつしよく</sup>を遮<sup>さへぎ</sup>る皮膚<sup>ひまぐ</sup>ではある。

(内田樹編『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』  
〈晶文社〉) より、一部引用

「①」に入ることばとして、最適なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 流動的                      イ 合理的                      ウ 安定的                      エ 本質的

本pdfデータは

「**●●的、●●性、●●化**」

**に関する問題がよくわかる**

**過去問解説カード**

の**表面**の問題のみを紹介したサンプルになります。

**裏面**に解答と詳しい解説があります。

下記をクリック

商品は



『**自宅でできる受験対策ショップ**  
**ワカルー！**』

からご購入いただけます。